



低圧進相コンデンサからの火災は梅雨から夏期に発生しやすく、本年6月にも当消防本部管内でコンデンサに起因する火災が発生しています。また、コンデンサ火災のほとんどが長期使用に伴う絶縁劣化によるものです。

低圧進相コンデンサは工場、作業場等の大型機械、業務用冷蔵庫等の動力用として使用されています。夏期に入り本格的な暑さが進むと、コンデンサ本体の温度も上昇して絶縁劣化が進行し火災が発生する危険がありますので、分電盤に古いコンデンサが使用されていないか点検しましょう。

【コンデンサ火災の特徴】

- 1 コンデンサは劣化しても通常通り使用できるため異常に気づきにくく、**突如、煙や炎が噴出し出火**します。
- 2 機械を使用していなくても、メインブレーカーを切らなければコンデンサに電圧がかかっているため、**日中夜間問わず、常に出火危険**があります。
- 3 年間を通じて夏時期に多く発生しており、そのほとんどが**使用年数30年以上**となっていました。

【コンデンサ火災を防ぐために】

- 1 機械を**使用しないときはメインブレーカーを切り**、コンデンサに電圧がかからないようにしましょう。
- 2 昭和50年(1975年)以前に製造された製品には保安装置が内蔵されていないため、被害が拡大する危険性がありますので使用の停止や交換等が必要です。
- 3 おおむね**10年以上経過したもの**は、専門業者による点検を受け、計画的に交換しましょう。

【コンデンサの実例】

設置例



- ・ 金属製の箱状のもので
コンビーフ等の缶に似ている
- ・ 製造年は正面に張られた銘板
で確認できる

火災事例



- ・ コンデンサが絶縁破壊を起こし、
熱膨張して外蓋が捲れるように出
火している



山武郡市広域行政組合消防本部予防課
東金市家徳384番地2
電話 0475-52-8753 (調査・危険物係)
0475-52-8754 (予防・査察係)
Fax 0475-55-0131

